

「言語化によって変わる日本サッカー」

青木 力（神田ゼミ）

要約

サッカーは流動的なゲームであり、ピッチ上で起きていることの一部を切り取って説明することで、プレーに意味が与えられる。これがプレーの言語化である。本論文は、日本代表の外国人監督たちが言語化した「アイコンタクト」「ポリバレント」「デュエル」の三つの言葉を例に、現代サッカーで重要視されているプレーの言語化について考察したものである。

メディアに表れる三つの言葉を検討する中で分かったのは、言語化はサッカーをプレーする側だけでなく、観戦する側や報道する側の意識にも影響を与えていることだ。

いずれの言葉も選手たちの意識を変え、プレーに大きく影響した。それと同時に、言葉はメディアを通じて広まり、ファンや報道陣も言語化によって観戦リテラシーを高めてきたのだ。

日本サッカーの言語化は外国人監督たちによってもたらされた外国語の概念を消化することであった。それにより日本サッカーは進歩してきたが、これから日本サッカーがより先へ進んでいくためには、プレーを直接日本語化することが必要である。